

「東大見学ツアーに参加して」

一日目の最初は三菱商事本社に訪問した。三菱商事は日本有数の総合商社であり、あらゆる部門の貿易に携わっている。そのような巨大企業の本社でお話を伺うのは、とても貴重な体験であった。話してくれた内容は、三菱商事のホームページに載っている内容の詳しい解説であった。解説の内容もさることながら、私は、解説してくれた社員の方の生き方に興味を持った。この様な大企業の社員の方は、高校時代もエリートで優秀な学生だったのかと思っていた。しかし、話を伺うと、彼らの多くは私たちと同じような一般的な部活等に打ち込む普通の高校生であったことがわかり、大変驚いた。私たちのグループを担当してくださった方は、上海に派遣された経験を持つ方であった。上海は今と昔では大きく違っているそうだ。今は、経済特区が設けられ多くの外国企業が進出して、華人だけでなく多くの外国人が生活している。様々な文化が入り混じった上海は面白い都市らしい。彼は、様々な民族の価値観や常識をお互いに知ることができて、とても楽しかったと言っておられた。

私も将来外国の企業で働きたいと思っている。もちろん自分の好みの仕事もしたいと思っているが、そのような様々な価値観を持つ人と知り合いになれる機会があることも期待している。

もう一人の担当の方は会社のOBの方で、今の若者に必要な事や会社からの要望を話してくれた。彼が言うには現代の若者は日本人としての誇りや、常識が欠けているらしい。具体的には、譲り合いの精神などといった思いやりの気持ちが欠けているとおっしゃっていた。私たちにはそのようなことを求めているようだった。

午後は防衛省の訪問だ。私たちの班は、当初羽田空港へのアポ取りを予定していたが、米軍の航空軍事の現状を見てみたいとの意見が多く、航空自衛隊横田飛行場を希望した。だが、横田基地はペンタゴンの管轄であり、西太平洋だけでなく米国本土にも関わる嘉手納、横須賀と並ぶ米国軍事戦略上重要拠点。北はアラスカから南はシンガポールのラインを担当とする重要なキーストーンである。また、1都8県(東京都、栃木県、群馬県、埼玉県、神奈川県、新潟県、山梨県、長野県、静岡県)の航空管制の役割も横田が担っている。そのため、簡単に見学の許可はいただけないとアドバイスされ、アポ取りを諦めた。このため、私たちは航空関係の現状を体験したい班であったので、最終的に防衛省の市ヶ谷駐屯地の航空自衛隊に連絡を取り、見学をさせていただくことになった。

私は小さい頃から空をとぶものに憧れており、設計やモノづくりが好きで、将来は最先端技術を使ってどこの国にも負けないような素晴らしい航空機を作りたいと思っている。しかし、航空機の最先端技術は最初に軍事目的で使われることが多く、民間向けには使われない。だから最高のパフォーマンスができる軍用機を保有している防衛省で、航空機の設計、製造に携わっている人の話を聞くことを楽しみにしていた。

防衛省では、私たちは広報室という現役自衛官の広報担当の仕事をする部屋に通された。駐屯地内を歩いている他の一般人は、内部ツアーのみで、このようなところで、説明を受けている様には見えなかった。私たちは、一段と深く話を伺うことができた。広報室では、C-2大型輸送機の開発、実験に携わっている自衛官のお話を聞かせていただいた。彼は、私が風邪をひいており、肺炎のような咳をしているところを見て、まず航空自衛隊での体力の重要性を示された。彼が言うには、航空機整備の世界ではパイロットが操縦した飛行機を、翌朝までに最高のパフォーマンスができるような完全な状態にし、パイロットのもとへ返さなくてはならない。特に、軍用機では、ミサイルや機関砲、爆弾といった火器やフレア、チャフなどのミサイル回避システム、特殊な電気系

統、高性能ジェットエンジンなどの民間機とは異なったハイテク技術を使用しているためさらに整備が大変なそう  
うだ。また、戦闘機等はマッハ2以上で飛んだり、スクランブル発進をすることもあるので機体のケアが極め  
て重要になってくる。そのような細かい整備をするので朝から晩まで仕事をし続けられる体力が必要らしい。そ  
のため今のうちに体力をつけておいたほうがよいそう。自衛隊ではなく他の一般企業でも体力・健康は重要だ  
と付け加えられた。

C-2 は純国産輸送機であるため開発には約 15 年と長い時間がかかったらしい。一方、三菱 F-2 戦闘機は  
アメリカのゼネラルダイナミクス社製 F-16 戦闘機をベースとしていたため、機体本体をゼロからの開発は必  
要なく、開発、研究、実験にあまり多く要しなかったそう。そのため比較的短時間で開発が終わり、製造、配  
備することができた。しかし C-2 は機体を含めすべてをゼロから開発しなくてはならなく、技研（防衛省技  
術研究本部）は幾多の困難を経て初飛行に至った。その後も輸送実験、空挺実験を繰り返し、やっとまもなく  
配備されるらしい。ちなみに、C-2 はこれまで保有していた輸送機よりも大きく、今までは運べなかった大型  
トラックや戦車も運べるそう。

話が一通り終わると、私は複数の質問をした。大学との共同研究はしないのか？高校時代に取り組むべきこと  
は？現在の戦闘機は超音速飛行をしたり、ステルス性を持つように複雑化しているが、制作に携わるためには大  
学でどのような分野を専攻すればよいのか？等である。航空力学なのか、材料工学なのか、電波工学なのか、ど  
れが近道か悩ましい。一つめの答えは、三菱や IHI、川崎といった民間企業のほうが、資金力だけでなく、技  
術面や研究面でも上を行くため大学との共同研究はあまり行われず、民間企業に委託することが多いそう。二  
つめについては、高校時代は体力をつけることが最優先で、しっかり運動するべきと繰り返された。自分を振り  
返ると、体力、勉強ともまだまだ不十分で、頑張っていかなければならない。でも、達成していくのも中々難し  
い。最後の質問に対する答えは、大学の選択は人それぞれではあり、専攻する学科はあまり気にしなくていいら  
しい。大学では航空系の専攻をとる人が多いそうだが、開発関係の仕事をするようになってから、材料工学など  
といったものを人それぞれ深めて、仕事をしていくらしい。防衛省では貴重な体験をさせていただき、自分  
には非常に有意義な見学であった。

二日目は東京大学を訪れた。僕はビル街の中にいるときに落ち着くので、キャンパスもだだっ広いものでな  
く、東京の雰囲気合った近代的な建物が多いことを期待していた。しかし、東大の本郷キャンパスは、安田講  
堂などといった赤レンガ造りの古い建造物や緑が多く、いかにも大学らしい雰囲気だったが、うるさい東京の超  
高層ビル街からいきなり静かになった雰囲気で都会のど真ん中にあるビルの無い陸の孤島のように感じられ、あ  
まりフィットしなかった。また、どこかキャンパス内に緊張感があり、大学 4 年間で専門課程が 2 年間しか  
できないことは、自分にとって物足りなく感じた。だから、多くの人たちは院へ進んでより深く研究するのかな  
と思った。私にとって伸び伸びと学問をする環境とは感じられなかった。実際に見学をしてみて、東大は高嶺の  
花であるのと同時に、自分にとってあまり魅力的な大学とは感じなかった。

以上をまとめると、三菱での現役社会人や OB のお話は自分にとって貴重な財産になったと思う。防衛省  
ではさらに空への興味がわき、将来航空関係の仕事に就きたいという気持ちが強まった。実際見学して得たもの  
を、将来の選択の重要な資料の一部として活用していきたい。